

歴史、社会的地位 付けの確認が必要

リフォム推進
協等化等
耐震ム

構造家・川口教授が講演

県耐震化・リフォーム推進協議会（田畑光三会長）は19日、福島市のホテル福島グリーンパレスで第4回耐震化・リフォームセミナー「構造設計

が織り成すデザイン」を開いた。県建築士事務所協会の共催、県建築安全機構、ふくしま建築住宅センターの後援。

約200人が参加。関係団体や行政に加え、県立福島工業高校建築科2年生40人も聴講した。法政大学名誉教授で構造家の川口衛氏（川口衛構造設計事務所主宰）が



「建物の強さ、美しさ、面白さ」新しい技術は、矛盾を乗り越えようとするときに生まれる」と題し講演。「設計を行

っていると、目前の仕事に追われ、木を見て森を見ずに陥りがち。日常の仕事について歴史の流れや世界の出来事の中で、今、行っている仕事の位置付けが必要。テーマを自分で考え、自分が何をしているのかの意識付けが重要」前置きし、代々木競技場の張力構造などを説明した。

設計が丹下健三・UR TEC、構造担当は坪井義勝研究室で、そこに所属していた川口氏は、第1体育館を担当。張力構造の施設では同時期にミュンヘン競技場が作られたが、表現は全く異なり、代々木は日本の伝統の造形を表す大屋根を取り入れたのに対して、ミュンヘンは張力が作り出す造形に任せている。このため、代々木では鉄骨のセミ・



会場に展示された計算機

組みを行っている。これらの難解、複雑な構造計算を手回しのタイガー計算機とそろばんと計算尺で処理しており最近、コンピュータで再計算してみるとほとんど変わらなかったという。

また、埼玉県加須市の青年会議所が町おこしで作った長さ100メートルの「大いこのぼり」が大空を泳ぐことができず相談を受け、次元解析など技術の立場から、布や縫い目の強度にあると分析。改良を加えた結果、無事に泳ぐことができ、さらにドイツ・カイザースラウテルンでFIFAワールドカップ・日本オーストラリア戦を記念し、このいこのぼりも出展した。

会場にはタイガー計算機の実物も置かれ目を引いていた。

「設計を行

っていると、目前の仕事に追われ、木を見て森を見ずに陥りがち。日常の仕事について歴史の流れや世界の出来事の中で、今、行っている仕事の位置付けが必要。テーマを自分で考え、自分が何をしているのかの意識付けが重要」前置きし、代々木競技場の張力構造などを説明した。

設計が丹下健三・UR TEC、構造担当は坪井義勝研究室で、そこに所属していた川口氏は、第1体育館を担当。張力構造の施設では同時期にミュンヘン競技場が作られたが、表現は全く異なり、代々木は日本の伝統の造形を表す大屋根を取り入れたのに対して、ミュンヘンは張力が作り出す造形に任せている。このため、代々木では鉄骨のセミ・

会場にはタイガー計算機の実物も置かれ目を引いていた。



200人近くが参加した講演会（上）と川口教授（上右）

代々木では鉄骨のセミ・

ど、随所に先進的な取り

明した。